

第19回 憲法と平和を考える集い

—「建国記念の日」に考える—

# 天皇美化の今日的役割



一昨年は天皇在位60年のキャンペーンがなされ、昨年は天皇の入院、手術についての政府マスコミの異常な対応、更にはXマークの準備等、最近天皇美化の動きがとみに強まっています。

戦前天皇は「現人神」として極度に美化され、結局は大多数の国民を侵略戦争にかりたてるための重要な手段とされました。

今日、軍事費のGDP1%突出、日米共同作戦強化、国家秘密法制定の策動等軍国主義化の方向が一層あらわになってきています。

「神武天皇」生誕の日とされる「建国記念の日」に、今日における天皇美化のねらいは何かをじっくり考えてみたいと思います。



講師：犬丸義一先生

(長崎総合科学大学 歴史学)

《講師紹介》犬丸先生は、近代史・現代史の第一線の研究者であり、第11回の集いで講演をしていただき大変好評でした。著書の代表的なものは次のとおりです。

「物語日本近代史1、2、3」(新日本選書)

「近代日本の歴史」(青木舎) 他多数

とき： 1988年2月11日 (木)

午前10時～12時

ところ： 宮崎市中央公民館大会議室  
(TEL. 0985-29-8455)

参加費： 300円 (資料代)

主催： 宮崎民主法律家協会・日本科学者会議宮崎支部  
(連絡先) 宮崎中央法律事務所 (TEL 0985-24-8820)

第19回 憲法と平和を考える集い

—「建国記念の日」に考える—

# 天皇美化の今日的役割



講師

犬丸義一先生

(長崎総合科学大学教授・歴史学)



-1988.2.11  
AM 10:00 ~ 12:00  
中央公民館大会議室



—もくじ—

1. <年表構成> 天皇裕仁が生きた時代 ..... P1~8
2. 自民党軽井沢セミナーでの  
中曾根首相講演<絞> ..... P9~13
3. 自民党憲法調査会  
『中間報告』より第一章の抜粋 ..... P14
4. 大日本帝国憲法・日本国憲法 ..... P15
5. 「昭和最後の日」の48時間 テレビ  
放送レポート81号 ..... P16~18
6. 「故高松宮が中心の政策集団  
35年前、独自の安保構想」新聞より ..... P19~20

主催：宮崎民主法律家協会・日本科学者会議宮崎支部

(連絡先) 宮崎中央法律事務所 (TEL 0985-24-8820)

## (「天皇制を問う」より)

森近運平ら「大阪平民新聞」を創刊

片山潛、「社会新聞」を創刊

幸徳秋水、堺利彦ら、朝鮮侵略反対を決議

第三次日韓協約締結。内政権をうばい、

軍隊を解散させる

東宮御所(赤坂離宮)現在の迎賓館竣工

伊藤博文、ハルビン駅で暗殺される

大逆事件の検挙開始

幸徳秋水逮捕される

韓国併合条約に調印

韓國の国号を朝鮮と改め、朝鮮總督府を置くむね公布

皇室財産令公布

1909 (明42)

学習院初等科に入学

1910 (明43)

大逆事件の検挙開始

幸徳秋水逮捕される

南北朝正閣問題おこる

衆議院で初めて普通選挙法可決(15日、

貴族院で否決)

大正天皇の名代で、大分県での陸軍

特別大演習を統監

1911 (明44)

大審院、大逆事件の被告二十四人に死刑

判決(19日、十二人を無期に減刑)

1・24→25 大逆事件の幸徳秋水ら十二人に死刑執行

南北朝正閣問題おこる

衆議院で初めて普通選挙法可決(15日、

貴族院で否決)

大正天皇の名代で、大分県での陸軍

特別大演習を統監

イギリス、フランス、イタリアを訪問。9月3日帰国

1921 (大10)

宮内省、「宮中某重大事件」で良子との

婚約に変更なしと発表

東京・上野で日本最初のメーデー

11・10・11 陸軍少佐に昇進(十九歳)

陸海軍少尉に任官(十一歳)

明治天皇大葬、乃木希典夫妻殉死

11・11・12 久邇宮良子との結婚内定

愛知・滋賀・京都へ旅行

11・12・13 ロシア十月社会主義革命

培養熊谷で近衛師団の演習を視察

11・13・14 久邇宮良子との結婚内定

愛知・滋賀・京都へ旅行

11・16・17 日本政府、シベリア出兵を宣言

横浜で連合艦隊を視察

11・17・18 ドイツ、連合国との休戦協定に調印。第一次世界大戦終る

11・19・20 明治天皇桃山陵、伊勢神宮に参拝

11・20・21 東宮御学問所開設(総裁・東郷平八郎元帥)

明治天皇の皇后美子(昭和天皇太后)死去

11・21・22 第一次世界大戦はじまる

日本、ドイツに宣戦布告

11・23・24 陸海軍中尉に昇進(十三歳)

明治天皇、即位礼舉行

11・25・26 第二章(三笠宮)誕生

11・27・28 大正天皇、即位礼舉行

11・29・30 第一章(三笠宮)誕生

11・31・32 第二章(三笠宮)誕生

11・33・34 第一章(三笠宮)誕生

11・35・36 第二章(三笠宮)誕生

11・37・38 第一章(三笠宮)誕生

11・39・40 第二章(三笠宮)誕生

11・41・42 第一章(三笠宮)誕生

11・43・44 第二章(三笠宮)誕生

11・45・46 第一章(三笠宮)誕生

11・47・48 第二章(三笠宮)誕生

11・49・50 第一章(三笠宮)誕生

11・51・52 第二章(三笠宮)誕生

11・53・54 第一章(三笠宮)誕生

11・55・56 第二章(三笠宮)誕生

11・57・58 第一章(三笠宮)誕生

11・59・60 第二章(三笠宮)誕生

11・61・62 第一章(三笠宮)誕生

&lt;資料&gt;

1・18 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

11・10・11 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

11・12・13 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

12・13 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

12・16 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

12・17 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

12・18 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

12・19・20 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

12・21・22 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

12・23・24 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

12・25・26 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

12・27・28 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

12・29・30 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

12・31・32 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

12・33・34 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・1・2 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・2・3 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・3・4 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・4・5 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・5・6 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・6・7 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・7・8 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・8・9 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・9・10 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・10・11 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・11・12 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・12・13 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・14・15 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・15・16 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・16・17 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・17・18 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・18・19 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・19・20 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・21・22 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・22・23 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・23・24 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・24・25 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・25・26 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・26・27 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・27・28 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・28・29 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・29・30 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・30・31 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・31・32 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・32・33 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・33・34 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・34・35 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・35・36 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・36・37 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・37・38 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・38・39 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・39・40 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・40・41 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・41・42 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・42・43 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

13・43・44 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

13・44・45 大正天皇、即位礼舉行  
弟尊宮崇仁(三笠宮)誕生

391

390

13・45・46 大隈重信内閣、中国にたいし旅順、大連の租借期限延長など二十一条を要求(5月9日)  
日本が受諾(5月25日)日華条約調印)

〈資料〉

- 1924 (昭和9年) 1月13日 大審院が死刑判決。山本権兵衛内閣、虎ノ門事件で総辞職。
- 1925 (大正14年) 1月26日 久邇宮良子と結婚。天皇桃山陵、伊勢神宮に参拝。
- 2月22日 明治天皇御山陵、伊勢神宮に参拝。
- 3月1日 軍艦「金剛」で台湾へ旅行。
- 4月12日 東京市主催の結婚奉祝会。
- 5月5日 福島県猪苗代町へ新婚旅行。
- 6月3日 陸軍大演習を統監。
- 7月1日 江田島海軍兵学校卒業式に出席、佐伯湾で連合艦隊を視察。
- 8月5日 軍艦「長門」で横須賀へ航行。
- 9月19日 赤坂離宮内に「生物学研究所」開設。
- 10月12日 山形県、秋田県、宮城県での陸軍特別大演習を統監。
- 11月14日 茨城県での陸軍特別大演習を統裁。
- 1930 (昭和5年) 4月22日 ロンドン海軍縮約調印、後日統帥権干犯問題に発展。
- 5月18日 本州南方海上での海軍特別大演習を統裁。
- 6月12日 陸軍特別大演習の統裁と視察のため岡山県・広島県へ。
- 7月14日 浜口雄幸首相、狙撃されて負傷。
- 8月21日 陸軍特別大演習の統裁と視察のため熊本県・鹿児島県へ。
- 1931 (昭和6年) 3月7日 四女順宮厚子誕生。
- 4月22日 日本共産党、「赤旗」四十五号に「日本帝国主義の戦争準備と闘え」を発表。
- 5月18日 関東軍が柳条湖で満鉄線路を爆破、総攻撃を命令。(満州事変始まる)
- 6月8日 陸軍特別大演習の統裁と視察のため熊本県・鹿児島県へ。
- 1932 (昭和7年) 1月5日 「軍人勅諭」(一八八二年一月四日明治天皇が「下賜」)五十年記念にあたり、その内容をよくかみしめよと陸海軍人に勅語を投げつける(桜田門事件)。
- 2月15日 海軍中尉古賀清志・同三上卓ら、大養駿を射殺(五・一五事件)。
- 3月10日 日本共産党、「赤旗」三三一年テーゼ」を「赤旗」
- 1935 (昭和10年) 2月18日 陸軍省パンツを批判した美濃部達吉の「天皇機関説」貴族院本会議で攻撃される。
- 3月6日 来田した「満州國」皇帝溥儀と会見。
- 4月9日 美濃部達吉の著書「逐條憲法精義」「憲法摘要」「日本憲法の基本主義」発禁処分。
- 5月3日 政府、天皇機関説は「わが國体の本義を憤るもの」とする国体明徴声明を発表。
- 6月11日 陸軍特別大演習の統裁と視察のため群馬県・埼玉県・埼玉県へ。
- 1936 (昭和11年) 2月26日 ファシスト青年将校のクーデター(一一・二六事件)。内大臣斎藤美、蔵相高橋是清ら殺害される。
- 3月1日 「満州國」で帝制を開始、溥儀が皇帝を名のる。
- 4月6日 本州南方海上での海軍特別大演習を統裁。
- 5月1日 第十七回メーデー禁止される(再開は一九四六年)。
- 6月24日 戒厳令布告(一七・一八)。
- 7月11日 戦争はじまる。
- 7月20日 国民精神総動員実施要綱を閣議決定。
- 7月25日 日独防共協定調印。
- 8月11日 陸軍特別大演習統裁と地方視察のため北海道へ。
- 9月24日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 10月1日 井県・京都府へ。
- 10月22日 陸軍特別大演習と地方視察のため福井県・奈良県・京都府へ。
- 11月23日 本州南方海上での海軍特別大演習を統裁。
- 12月1日 陸軍特別大演習と地方視察のため福井県・京都府へ。
- 1937 (昭和12年) 2月2日 文部省、「國体の本義」を刊行。
- 2月7日 北京郊外の盧溝橋で日中両軍交戦、日中戦争はじまる。
- 2月10日 宮中に大本營を設置。
- 2月21日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 3月11日 皇居内で双葉山の土俵入りを見物。
- 4月24日 国民精神総動員実施要綱を閣議決定。
- 5月5日 岡田啓介内閣総辞職。
- 6月28日 戒厳令布告(一七・一八)。
- 7月10日 第十七回メーデー禁止される(再開は一九四六年)。
- 7月31日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 8月24日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 9月24日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 10月21日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 11月20日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 1927 (昭和2年) 1月3日 大正天皇大葬(東京・新宿御苑)を明治節とする詔書を出す。
- 4月18日 南京に国民政府成立。
- 5月28日 第一次山東出兵はじまる(9月8日まで)。
- 6月14日 赤坂離宮内に水田を作り、田植えを始め。
- 7月15日 日本共産党、「二七年テーゼ」で「君主制の廢止」を強調。
- 7月19日 陸軍士官学校の卒業式に出席。
- 7月27日 横浜沖で海軍特別大演習・観艦式を統裁。
- 7月28日 横浜沖で海軍特別大演習・観艦式を統裁。
- 8月10日 軍艦「山城」で小笠原諸島、奄美大島を視察。九州沖で連合艦隊の訓練を視察。
- 9月10日 二女久宮祐子誕生(翌年3月8日死去)。
- 10月20日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 11月10日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 12月11日 本州南方海上で海軍特別大演習を統裁。
- 1928 (昭和3年) 1月10日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月11日 菊池石、国民政府主席に就任。
- 1月12日 京都で即位の礼舉行。
- 1月13日 東京・代々木練兵場で「御大礼大観兵式」。近衛師団一万四千人、第一師団九千人、陸軍士官学校と各学校の生徒・学生四千五百人、陸軍各連隊長と軍旗八十六旒、陸軍機百五十三機などが参加。
- 1月14日 岩手県での陸軍大演習を統裁。
- 1月15日 岩手県での陸軍大演習を統裁。
- 1月16日 岩手県での陸軍大演習を統裁。
- 1月17日 菊池石、国民政府主席に就任。
- 1月18日 京都で即位の礼舉行。
- 1月19日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月20日 菊池石、国民政府主席に就任。
- 1月21日 京都で即位の礼舉行。
- 1月22日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月23日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月24日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月25日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月26日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月27日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月28日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月29日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月30日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月31日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月32日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月33日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月34日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月35日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月36日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月37日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月38日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月39日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月40日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月41日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月42日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月43日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月44日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月45日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月46日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月47日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月48日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月49日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月50日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月51日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月52日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月53日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月54日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月55日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月56日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月57日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月58日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月59日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月60日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月61日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月62日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月63日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月64日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月65日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月66日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月67日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月68日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月69日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月70日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月71日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月72日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月73日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月74日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月75日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月76日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月77日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月78日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月79日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月80日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月81日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月82日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月83日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月84日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月85日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月86日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月87日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月88日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月89日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月90日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月91日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月92日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月93日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月94日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月95日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月96日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月97日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月98日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月99日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月100日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月101日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月102日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月103日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月104日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月105日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月106日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月107日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月108日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月109日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月110日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月111日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月112日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月113日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月114日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月115日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月116日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月117日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月118日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月119日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月120日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月121日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月122日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月123日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月124日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月125日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月126日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月127日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月128日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月129日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月130日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月131日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月132日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月133日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月134日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月135日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月136日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月137日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月138日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月139日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月140日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月141日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月142日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月143日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月144日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月145日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月146日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月147日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月148日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月149日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月150日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月151日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月152日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月153日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月154日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月155日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月156日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月157日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月158日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月159日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月160日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月161日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月162日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月163日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月164日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月165日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月166日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月167日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月168日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月169日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月170日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月171日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月172日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月173日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月174日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月175日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月176日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月177日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月178日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月179日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月180日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月181日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月182日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月183日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月184日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月185日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月186日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月187日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月188日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月189日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月190日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月191日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月192日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月193日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月194日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月195日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御親闇式」。
- 1月196日 在郷軍人代表を集めて皇居前広場で「御大礼特別御

〈資料〉

3・2	2・28	文部省、「宮城遙洋」など通達
3・4	政府、朝鮮の教育令改定、朝鮮語の使用を禁止	
4・1	国家騒動員法を公布	
3・2	3・2	五女清富貴子誕生
3・15	各地の招魂社を護國神社に改称（4月1日）	
3・28	3・2	ノモン汗で日本軍とソ連軍が紛争、日本大敗。大本營、9月3日に作戦中止を命令。9月15日停戦協定
5・22	5・22	皇居前広場で、全国千八百校の学生・生徒代表三万二千五百人を「親閑」し、「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語」を下賜
6・7	6・7	満蒙開拓青年義勇軍二千五百人の壮行会
7・8	7・8	国民徵用令公布
9・1	7・8	ドイツ軍がボーランドに侵入、第二次世界大戦はじまる
11・7～8	11・7～8	富士山麓で近衛師団演習を視察
1945 (昭20)	1940 (昭15)	1941 (昭16)
2・14	2・14	近衛文麿、改戦の必至と共産革命の脅威を上奏。天皇は戦争統帥を主張
3・9～10	3・9～10	名古屋空襲
3・13	3・13	大阪空襲
3・17	3・17	神戸空襲
3・18	3・18	東京都内の戦災地を視察
4・1	4・1	米軍、沖縄本島に上陸開始（6月23日守備軍全滅）
4・5	4・5	ソ連、日ソ中立条約の不延長を通告
5・7	5・7	ドイツ、連合国に無条件降伏
5・13	5・13	東京大空襲、皇居の宮殿全焼
6・8	6・8	天皇出席の最高戦争指導会議、本土決戦の方針決める
6・23	6・23	民義男兵役法公布（十五歳から六十歳までの男子、十七歳から四十歳までの女子を国民義勇戦闘隊に編成）
7・26	7・26	トルーマン米大統領ら、対日ボツダム宣言を発表
8・6	8・6	アメリカ、広島に原爆投下
8・8	8・8	ソ連、対日宣戦布告
8・9～10	8・9～10	「御前會議」で、國体護持、を条件にボツダム宣言受諾の方向を確認
9・2	9・2	米艦ミズーリ号で降伏文書に調印
9・11	9・11	GHQ（連合国総司令部）、東条英機らを訪問
8・27	8・27	戦争犯罪人三十九人の逮捕を指令
9・27	9・27	マッカーサー元帥（連合国最高司令官）
1946 (昭21)	1942 (昭17)	1943 (昭18)
1・1	1・1	神格否定の「人間宣言」を放送
1・4	1・4	GHQ、軍國主義者の公職追放と超國家主義団体の解散を指令
10・9	9・27	日独伊三国同盟調印
10・11	10・11	横浜沖で「紀元二六〇〇年」特別観艦式を「親閑」
10・10	10・10	大政翼賛会発足（總裁・近衛文麿首相）
10・21	10・21	代々木練兵場で「紀元二六〇〇年式典」
11・11	11・11	大日本産業報国会創立
11・23	10・10	皇居前広場で「紀元二六〇〇年記念」
11・23	11・11	大日本産業報国会創立
12・11	12・11	戦局の転機に
12・13	12・13	ソ連軍、スターリングラードで大反攻を開始
1944 (昭19)	1944 (昭19)	1944 (昭19)
2・1	2・1	「御文庫」に移住
2・2	1・8	日本軍、ガダルカナル島から撤退開始
3・1	3・1	日本青少年団結成
3・2	3・2	国民学校令公布。小学校を国民学校と改称、宮城遙洋や軍事教練を課す
3・7	3・7	国防保安法公布
4・13	4・13	日ソ中立条約調印
5・7	5・7	皇居内に防空建築の「御文庫」建築工事始まる
6・22	6・22	ドイツ軍、ソ連を攻撃、独ソ戦はじまる
7・2	7・2	「御前會議」で「情勢の推移に伴う帝国國策要綱」を決定。対英米戦準備と、対ソ戦準備を明記
9・6	9・6	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（10月下旬を日途として対米・英・蘭戦争準備を完成へ）
10・10	10・10	東条英機内閣成立
10・18	10・18	「御前會議」で「帝国國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
11・5	11・5	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
11・10	11・10	「御前會議」で対米・英・蘭開戦を決定
11・18	11・18	宣戦の詔勅、太平洋戦争はじまる
12・1	12・1	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
12・8	12・8	「御前會議」で対米・英・蘭開戦を決定
13	13	宣戦の詔勅、太平洋戦争はじまる
14	14	「赤旗」再刊第一号
15	15	東京で「赤旗」再刊第一号
16	16	「赤旗」再刊第一号
17	17	政府、毎月八日を「大詔奉日」に決定
18	18	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
19	19	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
20	20	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
21	21	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
22	22	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
23	23	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
24	24	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
25	25	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
26	26	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
27	27	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
28	28	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
29	29	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
30	30	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
31	31	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
32	32	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
33	33	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
34	34	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
35	35	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
36	36	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
37	37	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
38	38	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
39	39	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
40	40	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
41	41	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
42	42	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
43	43	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
44	44	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
45	45	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
46	46	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
47	47	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
48	48	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
49	49	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
50	50	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
51	51	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
52	52	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
53	53	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
54	54	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
55	55	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
56	56	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
57	57	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
58	58	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
59	59	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
60	60	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
61	61	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
62	62	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
63	63	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
64	64	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
65	65	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
66	66	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
67	67	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
68	68	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
69	69	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
70	70	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
71	71	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
72	72	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
73	73	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
74	74	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
75	75	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
76	76	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
77	77	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
78	78	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
79	79	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
80	80	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
81	81	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
82	82	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
83	83	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
84	84	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
85	85	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
86	86	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
87	87	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
88	88	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
89	89	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
90	90	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
91	91	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
92	92	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
93	93	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
94	94	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
95	95	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
96	96	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
97	97	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
98	98	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
99	99	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
100	100	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
101	101	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
102	102	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
103	103	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
104	104	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
105	105	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
106	106	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
107	107	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
108	108	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
109	109	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
110	110	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
111	111	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
112	112	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
113	113	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
114	114	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
115	115	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
116	116	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
117	117	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
118	118	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
119	119	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
120	120	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
121	121	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
122	122	「御前會議」で「帝國國策遂行要領」を決定（12月初旬武力発動を決意）
123	1	

- 11・28 マッカーサーを訪問（九回目）

1950（昭25）

3・12・31 香川県・愛媛県・高知県・徳島県と  
淡路島を視察（高松、小豆島、琴平、坂出、觀  
音寺、新居浜、西条、今治、松山、興居島、八  
幡浜、宇和島、宿毛、中村、高知、室戸岬、日  
和佐、徳島、鳴門、油田、小松島、洲本）

4・4 甲府市での植樹祭に出席。その後恒例化  
する

4・18 マッカーサーを訪問（十回目）

6・6 全員の公職追放を指令

6・7 マッカーサー、共産党中央委員二十四人  
と十七人の追放を指令

6・8 朝鮮戦争はじまる

6・26 マッカーサー、「アカハタ」の一ヶ月停  
刊を指令

7・13 第八回臨時国会はじまる。この時から  
「勅語」を「おことば」にかえる

7・16 千葉での日本学生陸上競技大会に出席

7・18 マッカーサー、「アカハタ」の無期限発  
行停止を指令

8・10 警察予備隊令公布。8月23日第一陣約七  
千人入隊

9・1 開講、公務員のレッド・バージ決定

10・1 文部省、学校行事での「国歌」斎唱、「國  
旗」掲揚をすすめる

10・30 神宮競技場での第四回国体秋季大会に出  
席。以後恒例となる

10・1 中華人民共和国成立

9・25 「相模灣產後鰓類図譜」出版

9・8 マッカーサーを訪問（八回目）

卷之二十五

- |               |                                 |
|---------------|---------------------------------|
| 11<br>・<br>28 | マッカーサーを訪問（八回目）                  |
| 10<br>・<br>30 | 「相模灣產後鰓類図譜」出版                   |
| 9<br>・<br>25  | 中華人民共和国成立                       |
| 7<br>・<br>8   | 神宮競技場での第四回国体秋季大会に出<br>席。以後恒例となる |

1947年

6. 28 日本共産党、人民共和国憲法草案を發表。政治制度としての天皇制は「どんな形をとらうとも、人民の民主主義体制とは絶対に相容れない」とし、「第一条 日本国は人民共和制国家である」「第二条 日本人民共和国の主権は人民にある」など、主権在民をうたう上で、憲法に主権在民を明記するよう主張。

8. 24 日本共産党・野坂参三議員、衆院本会議で、憲法改正案を修正可決。

8. 24 衆議院、憲法改正案を修正可決。

9. 7 衆議院の宗教法人・靖国神社発足案を修正可決。

10. 7 衆議院、憲法改正案の貴族院修正案に同意。日本國憲法成立。

10. 16 マッカーサーを訪問（三回目）

10. 21 ~ 26 愛知県・岐阜県を視察（豊橋、岡崎、安城、名古屋、瀬戸、一宮、多治見、閑谷、岐阜、笠松、垂井）

11. 3 日本国憲法公布。天皇、皇居前広場での東京都主催新憲法公布記念祝賀市民大会に出席

11. 18 ~ 19 茨城県を視察（日立、水戸、石岡、

(敦賀、小浜、  
金沢、富山、



武生、福井、芦原、山中、七尾、滑川、岐阜県高山）。途中、金沢

- 言、「宮城遙拝」「天皇陛下万歳」、  
のを通達  
福井県・石川県・富山県を見回る  
福井県・石川県・富山県を見回る  
新発田・長岡・柏崎・高田・上田  
塩尻・諏訪・甲府・富士吉田・郡  
山形・上山・米沢・福島・会津若  
木県を視察（宇都宮、鹿沼、佐野  
那須、塩原、足利）  
福島県・長野県・山梨県を視察（新  
発田、長岡、柏崎、高田、上田  
塩尻、諏訪、甲府、富士吉田、郡  
河）  
島県・宮城県・岩手県・青森県  
県を視察（いわき、仙台、松島  
花巻、宮古、釜石、小岩井、盛岡  
弘前、大館、秋田、横手、酒田、  
山形、上山、米沢、福島、会津若  
木県を視察（宇都宮、鹿沼、佐野  
那須、塩原、足利）  
福島県・長野県・山梨県を視察（新  
発田、長岡、柏崎、高田、上田  
塩尻、諏訪、甲府、富士吉田、郡  
河）  
島県・宮城県・岩手県・青森県  
県を視察（いわき、仙台、松島  
花巻、宮古、釜石、小岩井、盛岡  
弘前、大館、秋田、横手、酒田、  
山形、上山、米沢、福島、会津若  
木県を視察（宇都宮、鹿沼、佐野  
那須、塩原、足利）  
福島県・長野県・山梨県を視察（新  
発田、長岡、柏崎、高田、上田  
塩尻、諏訪、甲府、富士吉田、郡  
河）

可一  
マツカ

- |         |      |      |     |
|---------|------|------|-----|
| 11      | 12   | 11   | 11  |
| 罪判決     | 拒否   | に臨席の | 新年  |
| 日       | 院    | 参議院  | 東京・ |
| 7・20    | 「教育勅 | マッカ  | 戦後初 |
| 人の日、春分  | 「宮城  | 衆議院  | 年会開 |
| ことの日の日、 | 国民の  |      | 式   |

一サ、「国旗」の由

- 948 (昭23) 一般「參賀」始まる  
祝日に関する法律公布  
院副議長の松本治一郎、  
天皇に対し、カニの横ばい  
青梅での植樹祭に出席  
の天皇誕生日一般「參賀」  
「サーサー」を訪問（六回目）  
が、「教育勅語」排除を  
詔「失効確認を決議  
」を「皇居」と改称  
祝日に関する法律公布  
の日、天皇誕生日、憲  
秋分の日、文化の日、

〈資料〉

- の儀をひらく
- 1・4 弟・秩父宮雍仁死去
- 3・11 日本遺族会設立
- 3・16 皇太子明仁、靖国神社に参拝
- 3・30 皇太子明仁、天皇の名代でイギリス・エリザベス女王の戴冠式参列をかねて欧米十四カ国を訪問（～10・12）
- 4・23 吉田首相、靖国神社に参拝
- 5・6～8 千葉県を视察（白浜、鴨川、成田、三里塚、千葉）
- 7・27 朝鮮戦争休戦協定調印
- 10・18 靖国神社秋季例大祭に「勅使参向」復活（以後例大祭ごとに勅使参向）
- 11・5 戦後初の天皇主催園遊会ひらく
- 11・10 歌舞伎座で観劇
- 11・11 ニクソン米副大統領夫妻と会見
- 1954（昭29）
- 1・2 新年一般参賀者混亂、十六人死亡（二重犠事件）
- 3・12 自由党憲法調査会発足（会長・岸信介）
- 6・9 防衛庁設置法・自衛隊法公布（保安隊を改組し、陸・海・空自衛隊方式に拡大）
- 7・1 自衛隊発足
- 8・6～23 第九回国体出席をかねて北海道を视察（函館、大沼、室蘭、登別、白老、夕張、岩見沢、旭川、北見、網走、弟子屈、阿寒、釧路、帯広、富良野、小樽、俱知安、ニセコ、余市、札幌、千歳）、自衛隊、「さきげ銃」で迎える。一連の地方「巡幸」おわる。
- 9・22 皇太子夫妻、日米修好百年記念で訪米（～10・7）
- 10・18 池田勇人首相、靖国神社に参拝
- 11・10 深沢七郎「風流夢譚」掲載の「中央公論」十二月号発売。宮内庁、大日本愛國党などの抗議で、中央公論社が謝罪文を発表（61年2月）
- 11・12～9 皇太子夫妻、イラン、エチオピア、インド、ネパールを訪問
- 11・19 靖国神社に参拝
- 11・5 自由党憲法調査会、天皇を「元首」とする憲法改正試案を発表
- 12・18 セイロンのユテラワラ首相と会見
- 1955（昭30）
- 1・21 インドネシアのスカルノ大統領と会見
- 2・1 歴史学者らが紀元節問題懇談会を結成、紀元節復活反対を声明
- 5・24 国立競技場での第三回アジア大会出席、開会を宣言
- 5・10 國際見本市へ初めて蔵前国技館で大相撲見物
- 5・24 自主憲法期成議員同盟結成
- 5・10 自由党と日本民主党が合同、自由民主党を結成
- 11・15 皇太子明仁、正田美智子との結婚
- 11・28 義理、成人式
- 1956（昭31）
- 1・14 自民党、靖国神社法草案要綱を作成
- 3・22 社会党、靖国平和堂に関する法律草案要綱を発表
- 6・11 憲法調査会法公布
- 11・10 日ソ国交回復に関する共同宣言調印
- 11・19 エチオピアのハイレ・ラシエ皇帝と会見。戦後の国賓
- 12・18 日本、国連に加盟
- 1957（昭32）
- 1・13 自民党総額三議員ら、建国記念日法案を国会に提出（5月15日衆議院本会議で可決されたが、参議院で審議未了、廃案に）
- 4・23 靖国神社に参拝
- 10・10 岸信介首相、靖国神社に参拝
- 10・11 山梨県を旅行、富士山五合目まで登山
- 10・12 インドのネルー首相と会見
- 1958（昭33）
- 1・27 自民党、宗教法人問題特別委員会を設置。宗教法人法改正のなかで伊勢神宮、靖国神社の国家管理を検討
- 4・6 靖国神社臨時大祭復活（太平洋戦争関係戦没者合祀終了）
- 4・8 靖国神社に参拝
- 3・28 千鳥ヶ淵戦没者墓苑竣工。追悼式に出席
- 4・10 皇太子明仁、正田美智子と結婚
- 4・10 後楽園球場でプロ野球巨人・阪神戦を見物
- 6・10 佐藤栄作首相、靖国神社に参拝
- 6・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 6・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 6・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 6・14 皇太子夫妻、タイを訪問
- 6・15 伊豆大島へ旅行
- 6・16 岡山県・鳥取県・島根県を旅行
- 6・17 武道館での政府主催全国戦没者追悼式に出席
- 6・18 赤坂に東宮御所完成
- 6・19 皇太子、広島を訪問
- 1959（昭34）
- 1・27 自民党、宗教法人問題特別委員会を設置。宗教法人法改正のなかで伊勢神宮、靖国神社の国家管理を検討
- 4・6 靖国神社臨時大祭復活（太平洋戦争関係戦没者合祀終了）
- 4・8 靖国神社に参拝
- 10・26 皇太子明仁、正田美智子と結婚
- 10・27 後楽園球場でプロ野球巨人・阪神戦を見物
- 10・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 10・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 10・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 11・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 12・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 13・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 14・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 15・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 16・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 17・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 18・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・1 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・2 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・3 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・4 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・5 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・6 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・7 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・8 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・9 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・10 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・11 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・12 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・13 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・14 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・15 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・16 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・17 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・18 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・19 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・20 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・21 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・22 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・23 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・24 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・25 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・26 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・27 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・28 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・29 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・30 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・31 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・32 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・33 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・34 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・35 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・36 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・37 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・38 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・39 佐藤栄作、靖国神社に参拝
- 19・40 佐藤栄作、靖国神社

〈資料〉

- 4・24 全日本仏教会、靖国法案強行採決反対を表明

13 衆議院法制局が、法案成立時にはまったく別の靖國神社となるとの見解を出す。神社側は法案推進側に衝撃

5・23 靖国法案に反対する哲学者の声明発表

5・25 自民党、靖国神社法案を衆議院本会議で可決

5・30 婦人四十団体が靖国法案を阻止する集会を開く

6・3 靖国法案廃案（五回目）。その後は提出されない

1974(昭49)

- 5・3 本土復帰「沖繩特別國体」開幕、沖繩行  
を中止し、出席せず

5・6～23 皇太子夫妻、オーストラリア、ニュ  
ージーランドを訪問

5・26 増原恵吉防衛庁長官の「内奏」に、「血  
衛力が大きいとは思えない」と発言。5月29日  
増原辞任

6・5 參議院内閣委員会で、中曾根通産大臣が  
「日本は王制の国」と発言。

10・10 10・11～22 皇太子夫妻、スペインを訪問  
傷痍軍人会創立三十周年記念式典に出席  
田中首相、靖国神社に参拝

11・26 上野公園でパンダを見物

1969 (昭44)

- |         |                                  |                          |
|---------|----------------------------------|--------------------------|
| 5 · 4   | 3 · 15                           | 皇太子、万国博名誉総裁に就任           |
| 5 · 28  | 佐藤首相、靖国神社に参拝                     | 中曾根康弘運輸相、拓殖大学で靖国神社       |
| 7 · 14  | 日本キリスト教協議会、靖国神社国家護持に反対する集会とデモ    | 国家護持を講演                  |
| 8 · 15  | 靖国神社問題連絡会議結成。神社神道以外のほとんどの宗教団体が加盟 | 歴史科学協議会、靖国國家護持反対声明       |
| 8 · 25  | 北海道百年記念式典に出席                     | 宗教者平和大会、靖国法案反対を決議        |
| 10 · 10 | 戦傷病者特別援護法制定記念式典に出席               | 政府主催の明治百年記念式典に出席         |
| 10 · 10 | 11 · 23                          | 11 · 23                  |
| 11 · 14 | 皇居新宮殿落成式（建築費百三十三億七千五百万円）         | 皇居新宮殿落成式（建築費百三十三億七千五百万円） |

三國志

初提出

昭和45年(1970)

- |                     |          |         |              |                 |                |
|---------------------|----------|---------|--------------|-----------------|----------------|
| 11                  | 11       | 11      | 10           | 10              | 9              |
| .                   | .        | .       | .            | .               | .              |
| 11                  | 8        | 4       | 20           | 18              | 30             |
| .                   | .        | .       | .            | .               | .              |
| 浩宮                  | 初めて      | 靖國神社に参拝 | 佐藤首相、靖國神社に参拝 | 靖國神社創立百年記念大祭で参拝 | 【天草諸島のヒドロ虫類】出版 |
| 来日したアボロ11号の宇宙飛行士と会見 | 神道政治連盟発足 |         |              |                 |                |

1971 (昭46)

- |            |                           |  |  |            |                               |
|------------|---------------------------|--|--|------------|-------------------------------|
| 11<br>- 29 | 議会開設八十年記念式典に出席<br>地に乱入、自決 | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 | 11<br>- 25 | 靖国法案、ふたたび国会に提出<br>靖国法案廢案(二回目) |
|            |                           | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 |            | 靖国法案、ふたたび国会に提出<br>靖国法案廢案(二回目) |
|            |                           | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 |            | 靖国法案、ふたたび国会に提出<br>靖国法案廢案(二回目) |
|            |                           | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 |            | 靖国法案、ふたたび国会に提出<br>靖国法案廢案(二回目) |
|            |                           | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 | 佐藤首相、靖国神社に参拝<br>三島由紀夫、東京・市ヶ谷の自衛隊駐と<br>万國博を見物 |            | 靖国法案、ふたたび国会に提出<br>靖国法案廢案(二回目) |

初来日

- 11.10.19 田中首相、靖国神社に参拝  
11.7.8 伊勢神宮に参拝。二十八年ぶりに  
**（創建遷座式）復活**

11.11.9 「小笠原の群島のヒヨロゾア類」出版

11.10.9 フィールド长大赤鷹次田由幸さん会（見識大）

28  
皇太子夫妻、ネパール

- 11.19.1  
統領の初来日)  
フード・米大統領歓迎晩さん会(現職大

1978 (昭53)

- |        |  |
|--------|--|
| 4 · 22 | 三木武夫首相、靖国神社に参拝                           |
| 4 · 22 | 自民党、靖国神社国家管理は段階的に推進することとし、旧法案を断念         |
| 5 · 7  | 来日したイギリスのエリザベス女王夫妻と会見（英元首初来日）            |
| 7 · 17 | 皇太子夫妻、沖縄海洋博覧会式に出席、ひめゆりの塔の前で火災びん事件        |
| 8 · 15 | 三木首相、現職の首相として初めて終戦の日に靖国神社参拝〔「私人」の資格で〕。全国 |

卷之五

- |               |                 |              |             |                   |           |
|---------------|-----------------|--------------|-------------|-------------------|-----------|
|               |                 |              |             |                   | 1971(昭46) |
| 5<br>13<br>13 | 29<br>26<br>27  | 1<br>4<br>4  | 1<br>1<br>1 | 22<br>27<br>22    |           |
| 靖国法案三たび国会に提出  | 神奈川県葉山の別荘、放火で全焼 | 広島の原爆碑に初めて参拝 | 古稀の誕生日      | イギリス学士院会員に選ばれる    |           |
| 4<br>27       | 4<br>23         | 4<br>6       | 2<br>11     | 日本歴史学協会、靖国法案反対を決議 | 宮崎県へ旅行    |
| 田中首相          | 靖国神社に参拝         | 田中首相         | 靖国法案        | 五たび国会に提出          | 靖国法案      |

1973(昭48)

- |    |   |    |  |
|----|---|----|--|
| 7  | 初提出   | 7  | 津地鎮祭訴訟で、名古屋高裁違憲判決  |
| 7  | 1・1 靖国法案提出に抗議し、各地で集会、す<br>わりこみ、ハンスト                         | 8  | 8・5 靖国法案廢案   |
| 8  | 2・27 キリスト者遺族の会、靖国神社に対しね<br>リスト者戦没者を靈廟から抹消することを要<br>求。神社側は拒否 | 9  | 9・27 ヨーロッパ七ヶ国を訪問（ベル<br>ギー、イギリス、西ドイツ、デンマーク、フラン<br>ス、オランダ、スイス） |
| 9  | 10・10・18 佐藤首相、靖国神社に参拝                                       | 9  | 9・26 「カゴメウミヒドリに関する追補」出版                                      |
| 9  | 10・20 靖国神社創立百年記念大祭で参拝                                       | 9  | 9・27 10・14 静岡県下田町須崎の天皇家別荘完成                                  |
| 10 | 11・11・13 来日したアボロ11号の宇宙飛行士と会見                                | 10 | 10・18 佐藤首相、靖国神社に参拝   |
| 10 | 11・11・13 神道政治連盟発足   | 11 | 11・5 静岡県下田町須崎の天皇家別荘完成  |
| 10 | 11・11・13 哲宮、初めて靖国神社に参拝                                      | 12 | 12・11・13 札幌オリンピック冬季大会で名誉総裁と<br>して開会式宣言                       |
| 11 | 12・19・28 1・19・28 皇太子夫妻、マレーシア、シンガポ<br>ールを訪問                  | 13 | 3・7 中曾根自民党総務会長、靖国神社法案成<br>立促進大会で、慰靈堂案を発表、場内騒然                |
| 12 | 1・13・17 4・9 イギリスのチャーチル・ズ皇太子と会見                              | 5  | 5・15 沖縄の施政権返還。天皇、日本武道館で<br>の沖縄復帰記念式典に出席                      |
| 13 | 5・13・17 4・14 靖国法案、ふたたび国会に提出                                 | 6  | 6・16・22 靖国法案四たび国会に提出   |
| 14 | 5・13・17 5・13・17 万國博を見物                                      | 7  | 7・8 田中角栄首相、靖国神社に参拝   |
| 15 | 5・13・17 5・13・17 万國博を見物                                      | 8  | 9・29 日中共同声明調印。日交正常化  |
| 16 | 6・16・22 佐藤首相、靖国神社に参拝  | 9  | 学制百年記念典書出  |

卷之三

- |  |            |
|--|------------|
| (靖国廟) 発足   | 1985 (昭60) |
| 8・15 中曾根首相、靖国神社に参拝。みんなで<br>靖国神社に参拝する国会議員の会の百六十九人が<br>が参拝 |            |
| 8・8 韓国の全斗煥大統領を迎えて晩さん会                                    |            |
| 1・21 中曾根首相、靖国神社に初詣                                       |            |
| 2・11 中曾根首相、建国記念の日を祝う会の式<br>典に出席                          |            |
| 3・25 ランドを訪問  |            |
| 3・23 ? - 3・9 皇太子夫妻、スペイン、アイル<br>ランドを訪問                    |            |
| 3・25 スウェーデン国王と会見   |            |
| 4・10 自民党、靖国公式参拝実現のための推進<br>委員会を設置                        |            |
| 4・18 国立劇場での工業所有権制度百周年記念<br>式典に出席                         |            |
| 4・19 オランダ首相夫妻と会見   |            |
| 4・22 中曾根首相、靖国神社に参拝。みんなで<br>靖国神社に参拝する国会議員の会の百七十人が         |            |

昭(60) 1985

- 四三七



1980 (昭55)

- |   |   |
|---|---|
| 会結成   | 4・17 「立憲政治に拘泥しそぎて戦争を防止できなかつたのかもしれない」と発言                           |
| 4・21 鈴木首相・靖国神社に参拝                                       | 4・22 みんなで靖国神社に参拝する国会議員の初めで、会の百九十七人が参拝。議員の大半参拝は戦後初めて               |
| 7・26・8・2 皇太子夫妻、英チャールズ皇太子の結婚式に出席                         | 8・10 宗教団体・文化団体など約百団体、靖国神社公式参拝反対を政府に申し入れ                           |
| 8・15 鈴木首相・靖国神社に参拝、閣僚十九人も参拝。みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会の百三十七人が参拝 | 9・25 総務長官の私的諮問機関「戦没者追悼の日にに関する懇談会」発足                               |
| 11・10・10・6 27・17 鈴木首相・靖国神社に参拝日本を守る国民会議結成                | 10・15 フランスのミッテラン大統領と会見  |
| 神奈川県葉山の別荘再建   | 4・22 三笠宮寛仁、皇籍離脱の意を表明  |
| 4・21 4・20 鈴木首相・靖国神社に参拝                                  | 4・22 みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会の百九十九人が参拝                                 |
| 8・15 6・1 天皇、中国の趙紫陽首相と会見                                 | 5・25 戦没者追悼の日に関する懇談会、八月十五日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」とする最終報告書を提出(4月13日閣議決定) |
| 鈴木首相、公人・私人を明らかにせず靖国神社に参拝、閣僚十七人も参拝。みんなで靖                 | 4・22 みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会の百九十九人が参拝                                 |

1932 (四七)

- |  |        |   |
|--|--------|---|
| 参 拝                                      | 4 · 24 | 茨城県を視察、科学万博へ                                    |
| 御在位六十年奉祝委員会                              | 5 · 16 | 日本を守る国民会議を中心に「天皇陛下」                             |
| トルコ首相夫妻と会見                               | 5 · 20 | 15 皇太子夫妻、北欧四ヶ国を訪問                               |
| コスタリカ大統領と会見                              | 5 · 25 | ブルガリア国家評議会議長と会見                                 |
| パングラデシュ大統領を迎えて晩さん会見                      | 5 · 27 | 6 · 1 日本芸術院授賞式に出席                               |
| パブアニュギニア首相と会見                            | 6 · 8  | 7 · 8 イラン國家評議会議長と会見                             |
| ベルギー国王と会見                                | 7 · 10 | 7 · 9 ベルギー国王と会見                                 |
| 日本企護士連合会、「靖国神社国営化並びに國務大臣公式参拝問題に関する見解」を発表 | 7 · 12 | 7 · 12 日本企護士連合会、「靖国神社国営化並びに國務大臣公式参拝問題に関する見解」を発表 |
| （公式参拝は憲法に違反し、公務員の憲法擁護義務にも違反する）           |        |   |
| 中曾根首相、自民党の野田洋次郎セミナーで                     | 7 · 27 | 「國に殉じた人に國民が感謝するのは当然のこと」と、「さもなくばだれが國に命をささげるか」と発言 |
| 辯に抗議声明                                   | 8 · 5  | 8 · 5 日本キリスト教協議会、靖国神社公式参拝に抗議声明                  |
| 國民文化会議、靖国神社公式参拝反対を表明                     | 8 · 7  | 8 · 7 新日本宗教団体連合会、靖国神社公式参拝は憲法に反するとの意見書を発表        |
| 抗議声明                                     | 8 · 9  | 8 · 9 靖国想、藤波孝生官房長官に報告書を提出                       |
| 全日本仏教会、靖国神社公式参拝に反対を表明                    | 8 · 12 | 8 · 12 日本キリスト教団、靖国神社公式参拝に                       |
| 声明                                       | 8 · 14 | 8 · 14 日本キリスト教協議会、靖国神社公式参拝反対を表明                 |

1986 (昭61)

- 8・15 中曾根首相、靖国神社に公式参拝、「内閣総理大臣中曾根康弘」と記帳、本殿で一礼、玉ぐし料のかわりに供花料として公費から三万円支出。閑僚十八人、公人として参拝。みんなで靖國神社に参拝する国会議員の会の百七十一人が参拝

8・22 中国・新華社電が中曾根首相の公式参拝を「侵略戦争をあいまいにするもの」と批判

8・28 文部省、日の丸・君が代の徹底的通知

8・28 スペイン首相夫妻と会見

9・9 ネバール国王夫妻と会見

9・13 閑僚議長と会見

9・18 ハンガリー閑僚議長と会見

10・9 みんなで靖國神社に参拝する国会議員の会の百四十三人が参拝

10・19 渡辺房官長官 靖國神社秋季例大祭公式参拝見送りを表明

11・3 「那須の植物誌続編」出版

11・19 国立劇場での国民参政九十周年・普選六十周年 婦人参政四十周年記念式典に出席

11・28 インド首相夫妻と会見

11・28 兵庫県の僧侶八十五人、首相の靖國神社公式参拝で達成訴訟

12・22 内閣制度百周年記念式典に出席

12・22 政府、「天皇在位六十年記念式典」の開催を決定

1・6 自民党が靖國神社に対し、A級戦犯合祀をとりやめるよう要請しているが、神社側は拒否している、と説き新聞が報道

1・9 中曾根首相、明治神宮に参拝。二年つけた年頭の靖國神社参拝はやめる

1・20 憲法改悪阻止各界連絡会議が、「國民主

国民党、靖国公式参拜案

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 10. 9.<br>18. 21.  | イギリスのサッチャー首相夫妻と会見  |
| 11. 11.<br>15. 27. | 國神社に参拝する国会議員の会の百三十九人が<br>参拝  |
| 11. 11.<br>15. 27. | 八丈島・三宅島へ旅行<br>中曾根内閣発足  |
| 1. 24.             | 中曾根康弘首相、衆議院本会議での施政<br>方針演説で「戦後政治の総決算」を強調   |
| 3. 10.<br>10. 25.  | 「建国記念の日奉祝式典」を自治省も後援。<br>中曾根首相、初めて祝電  |
| 4. 1.<br>21.       | ア・ケニアを訪問<br>中曾根首相、「内閣総理大臣たる中曾根<br>康弘」として靖国神社に参拝  |
| 4. 22.             | みんなで靖国神社に参拝する国会議員の<br>会の百六十三人が参拝   |
| 6. 20.             | 吉野敬仁、オックスフォード大学留学へ<br>出発   |
| 8. 15.             | (85年10月31日帰国)<br>中曾根首相、靖国神社に参拝。閣僚十四<br>人も参拝。みんなで靖国神社に参拝する国会議<br>員の会の百四十五人が参拝。みんなで<br>参拝したことと答弁 |
| 9. 13.             | 中曾根首相、参院本会議で「英靈に感謝<br>し慰めることはどこの国でもやっている普通の<br>こと」と答弁  |
| 10. 18.            | 中曾根首相、靖国神社に参拝。みんなで<br>靖国神社に参拝する国会議員の会の百四十二人<br>が参拝   |
| 11. 9.             | レーガン米大統領と会見  |
| 11. 15.            | 自民党の靖国神社問題に関する小委員会<br>が、公式参拝は当然とする見解をまとめる  |
| 15. 5.             | 内閣府設立と会見   |

権に逆行する「天皇在位六十年」キャンペーンに反対」をアピール

1・24 日本共産党、「天皇在位六十年」祝賀行事をやめるよう、中曾根首相に申し入れ

1・30 日本共産党国会議員団、衆参両院議長に「建国記念の日」式典出席中止を申し入れ

2・7 日本共産党、「建国記念の日」式典への首相・閣僚の出席、政府後援などをとりやめるよう政府に申し入れ

2・11 中曾根首相、坂田衆院議長、木村参院議長、閣僚十六人が「建国記念の日」式典に出席

2・11 「紀元節」問題連絡会議が「軍事大國化に反対し、思想・良心の自由を守る2・11集会」をひらく。日本歴史学協会、首相・閣僚らの「建国記念の日」式典出席に抗議の声明

3・27 日本共産党・革新共同、皇太子訪韓反対、訪韓のための外交折衝中止を安倍外相に申し入れ

4・1 日本共産党、「天皇制の美化と天皇の元首化に反対する」見解と政策を発表

4・7 全国革新懇(平和・民主主義・革新統一をすすめる全国懇話会)世話人会が「天皇美化の「在位六十年」キャンペーント祝賀行事に対する」声明を発表。治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟、憲法改悪阻止各界連絡会議など十八団体が「天皇在位六十年」祝賀行事反対中央実行委員会を結成

4・12 中曾根首相、靖国神社春の大祭に参拝しないことを決める

4・19 日本共産党、皇太子の韓国訪問をとりやめるよう宮内庁長官に申し入れる

4・22 みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会の百四十八人が参拝

4・29 東京・国技館での政府主催「在位六十年記念式典」に出席

# 自民党軽井沢セミナーでの 中曾根首相講演（全文）

(一九八七年八月二十九日)

経済大国日本の進路

事な、日本人がもつとも大事に考えなければならない一つの分野について申し上げてみたい。そう思うのであります。いいかえればそれは正しい民族主義と国際主義との調和という問題なのであります。



そしていつたい日本のいまの位置という  
ものはどういう位置にあるのか、世界の政  
治や経済や社会の交わりのなかで日本の座  
わいておる座標の位置というものを、もう  
一回われわれはここでたしかめる必要があ  
るところなどを私なりによく申し上げたい。

難後四十年たどまつて、そして戦争に負けて日本は平和条約をやつたときには非常に寛大な平和条約であるとわれわれは謳歌し、また、その結果、日本はこれだけ興隆することができた。四十年たつむちに、喉元すければ歎きを忘れる。どうひとが人間でよくあることあります。いわんやこれだけ経済力が強くなり技術力が高まり、いま日本が世界でもおそらく歴史上の最大の債権国になろうとしておる。アメリカはいままでは債権国ナンバーワンの地位を保持しておつたのでありますか、最近は位置が変動してまいりまして、日本はだいたい今の状況では二千数百億<sup>ダ</sup>の債権国であり、アメリカが二千数百億<sup>ダ</sup>の債務国の人間にいるのではないかと想像されます。そういうような金持ちと申しますが、大きな力をもつてきている金融力ももつてきている。単に科学技術力だけではない。このものすごい金融力、目を見張るような金融力のをまじまじともう一回みるという情勢になつてきました。

と日本もあるいは世界の運命について考えてみたいと思います。みなさんのなかには、生臭い話はないだろうかと期待している人がおるかもしませんが、今日は生き臭い話はいたしません。もっと高尚な長続きのする話をいたしますので、どうぞ耳をすまじて真剣にきいてもらいたい。そう去の航跡、そういうもの忘れがちで、現在の繁榮とか、あるいは現在のこの喜びといいますか幸せといいますか、あるいはエネルギーのなかに酔つてしまつて、そして冷厳な国際政治のなかにおける座標といふものを忘れがちであります。

私もおかげさまで総理大臣を五年近くやらしていた大体おおとおりまして、やはり日本の運命というものを自分で直接肌身に感じて経験をしてきたわけであります。その五六年間の経験の結果得たひどい結論ともいいうべきもの、いくつもいろいろ大きな問題がじでていますけれども、そのなかのいま大

大きな関心を示すのみにならなかった。これは一面においては、それは評価であり敬意でありますけれども、一面においては、これだけ膨大な経済力をもつてゐる日本がさらに新しい技術力をこれに付加した場合にどうなるのであるか、という不安や警戒もなきにしもあらずである。こう考えなければならんと思うのであります。

時々、そういう水を浴びせるような批判が日本に向かって外国からくる。近隣諸国からもくるし、ある場合にはアメリカや友邦からくる。国会議員のなかにもいろんな発言をする方が、外国人も多い。そういう水をさらされるような問題が時々でてくることについで、少なくとも政治家、あるいは日本の経済や文化の指導者は、あるいはそれを支えていたみなさんのようない堅い国民のみなさんがたというものは、やはりそれらのことが起るたびにもう一回、われわれが現在座っている座ぶとんの位置というものをみる必要がある。私は国際社会に何回も出入りをして話もし、いろんな場面にも遭遇しておるので、そういうことをここで申し上げておくのがあります。

## 第二次世界大戦と枢軸国日本

考えてみると、世界大戦というものは歴史の洪水なのですね。これは『新しい保守的論理』という本を私が十数年前書きましたけれども、そのなかに明確に書いてあるところのとおりであります。第一次世界大

第一次世界大戦の歴史の洪水というものをさめたのは何であるかといえば、それは第一次世界大戦の教訓をよく学んで、そして敗戦国にたいしてあまり強圧的な報復的なことをやると、かえって世の中が乱れる、そういうような考え方であつて旧連合国のはうはかなり寛大な平和条約というものをやつたといわれておる。やられた方からルサイユ体制打破をいい、日本もイタリアはある程度その雰囲気に酔つて、そして持たざる国というような立場からいわゆる枢軸同盟というようなものを結成していく。そして連合国どついてに戦争に入つてしまつた。で、みごとに負けてしまった。歴史の氾濫があつたわけです、洪水が。

第一次世界大戦のあとは、その收拾は国際連盟といふものを中心しておこなわれた。しかし日本はご存知のように満州事変を機に松岡洋右さんがひつて国際連盟を脱退して、四十三対一というよくな孤立の道を歩んだことが日本の悲劇の原因になつた、ということはご存知の通りであります。しかし国際連盟といふものが一つの立て直しの大きな軌道であつたといえるでしょう。

第二次世界大戰

考えてみると、どうも「世界大戦」といふものは歴史の洪水なのですね。これは「新しい保守の論理」という本を私が十数年前に書きましたけれども、そのなかに明確に書いてあることがあります。第一次世界大

して敗戦国にたいしてあまり強圧的な報復的なことをやると、かうて世の中が乱れる、そういうような考え方もあって旧連合国のはうはかなり實大な平和条約というのをやつたといわれてゐる。やられた方から

を機に松岡洋右さんがいつて國際連盟を脱退して、四十三対一といふような孤立の道を歩んだことが日本の悲劇の原因になつた、ということはご存知の通りであります。しかし國際連盟といふものが一つの立て直しの大きな軌道であつたといえるでしょう。

第一次世界大戦後に、そういう経験をもつて、そしていまの体系の原型ができる。これが国際連合を中心とする体系である。経済的にはブレトン・ウッド協定とか、あるいは世界銀行とか、あるいはIMFとか、そういういろんな経済システム、体系をもつて、そして一九二九年のようなの大恐慌を再び起さないような経済的仕組みも構築して、その組織ができたわけであります。

ところが、この第二次世界大戦後のこの国連を中心とする仕組みというものを見ましても、それは連合国が神様でもないし、また負けた極東国は野獸でもない、同じ人間同士である。人間同士であるけれども、やいばりあれだけの大戦をやれば大戦が終

そういう面で国際連合の構成を一つみてても、これは戦勝国が安全保障理事会の常任理事国にみんななつた。アメリカ、ソ連、中国、フランス、イギリス。そこにはこの四

事金の決議に匹敵する、あるいはそれ以上の大きな重みをもつて総会決議ところのほどのものである。

日本は「ハッピー」

それから、ご存知のように国際連合憲章のなかには敵国条項というものがある。あたこれは残っている。それは日本やドイツやイタリーのような「敵国」連合国からみれば敵国ですね、このいわゆる敵国条項というものが残っており、これらにたいする関心というものは連合憲章のうえでまだ残っている。で、日本は国際連合について言えばアメリカに次いで二番目の大きな拠出金をしておる。これは、ほのかの国をもかなり引き離したぐらいの大きな金額を日本は毎年だして、国際連合を支えている大株主の一人です。また日本もドイツもイタリーモーも平和経済を営んで、そして発展途上国のためにも一生懸命努力もしておるし、国際社会の平和と安全維持のためにも応分の貢献をみんなやっておる。だからもう勝て負けなどない恩しゆうをして地球社会の一員としてみんな平等にそれをその憲章のもとに協力しあつておるという体系になつてきただ。

約という形で、あつたから、この不平等条約を直そうといふので、岸先生が大志一番をつけて、あれだけ努力されて、ついに旧安保を改正した。裁判権を日本に回復するとか、あるいはアメリカの軍隊が要請によつては内乱鎮圧のためにでてくることができなくなるどころか、どうのような屈辱的な文章も外させてこまつた。あるいは期限をつける、十年の期限をつける、いままで無期限であった、そういうような不平等的要素を直した。これは相手がアメリカといふ民主主義、自由主義を重んじて日本をよく理解している相手であったからできた。

安保改訂、あのときの安保改訂の内容といふのは正しい内容であり、当然日本人としてやるべき内容なんです。ただそれを改訂する手続き等において議会を通してきに、まああちこち国民党が急いだという面がなきにしもあらずである。そういうわけでワーッ――どうあの反発を呼び起した、と云ふ経過はあるでしよう。がしかし、冷静に安保改訂の内容を考えてみれば、あの改正は正しい改正であった。しかもそれは相手が一国だけである、アメリカという善意をもつておる民主主義を知つておる国であった、それによって、あれはできたと思うのです。

事金の決議に匹敵する、あるいはそれ以上の大きな重みをもつて総会決議というものははじめておる。

は、東ドイツが、まあソ連といつしょになつたかどうか知らんけれども、ベルリンの壁をついた。そしてベルリン封鎖をソ連がやうとした。それについてベルリンのは、島のような状態にあるわけですかね、それについてアメリカは大空輸作戦をやつて、そのソ連側の妨害の抵抗を排除したところはまだ、みなさん記憶が新しいことじゅう。

その国際的なステータス、地位というものはその当時と変わつてゐるわけではない。みなさんがたは「NPEの交渉において」というふうな形でいき、それから検証の問題、確かめあら、そういう検証の問題もつて着実に誠実に実行されていくならば、いつことが米ソ交渉の一つの問題点になつてゐることを存知でしよう。ですから、イーラー首相は、先般、与党内の考え方整理して、そしてもしも米ソの「INE」がうまく妥結していく、これが調印され批准書が成立、交換されて、成立し、それがタイムテーブルにそつて着実に誠実に実行されていくならば、つまりアジアもゼロ、ヨーロッパもゼロ、そういうふうな形でいき、それから検証の問題もつて、これが約束通りまく実行していく、そういうタイムテーブル通り進行していくとするならば、われわれもパーシング-I-aを廃棄しなよう、そういうことをこの間決めた。アメリカはすぐこれを歓迎するという声明をだした。ソ連側もこれにたいして歓迎的態度を表明した。新聞でご覧の通りですね。しかしあの場合、核弾頭はアメリカがもつてゐる民族あるいは人民の集団が、運命を共にして、日本が生きているといふことを、私は國の責任者として知っているがゆえに、日本を大事に思つて、日本を危険な淵にさひこしてはならぬ、アジアから再び孤立してはならぬ、といふ信念にたつてやつておる感じのあります。これがいかに悪いかといふことは歴史が批判するでしよう。

もう少しあんな面から考えてみて、しかしながら戦国といふものが勃興していくためには健全なナショナリズムが必要です。健全なナショナリズムとはなんであるかと云はば、まあ簡単なひとことでいう定義でござれば、よりするに運命を共同にしよう、どん

甲子年正月

かにそういう意味においてはハッピーなの  
であります。われわれは幸いに分割されな  
かった。ただ、遺憾ながら北方領土をいわ  
くしまぎれに占領されてしまつた。だから  
われわれは国をあけていま、その返還の努  
力をしている。北海道も占領されなかつ  
た。危機一髪であった。

“安保改定が今日の  
日本の繁栄を築く”

それで日本の防衛といふ問題はどうがどう  
いえば、多數国のなかにおける防衛といふ  
ものが認められるところの立場ではなくな  
って、日米安保条約、日本とアメリカだけの  
話し合いで、条約で日本の安全保障をアスマ  
リカといっしょにやつてふくらむ、そな  
いう形になつてゐる。これは多數国でそな  
いう枠内でできることじうど、その多數  
国条約を解体するところのことは非常に難  
いことだよ。

少し前が幸いここアメリカとの間の安全保障

「いろいろわれに欠如した重大な欠陥をもつて  
れで補強して補正して、そして戦後の日本を  
つくりあげた。なんといつても民族が固  
結しなければできない。社会に秩序が統一  
されなければできない。あの敗戦の焦土のま  
なかで、とっさのなかでそういうものがど  
うしてなんができるか、そういうときに固  
れわれが考えたのが天皇制という問題で  
す。

天皇は平和主義者であられて、そしてあ  
の大戦についておきわめて消極的態度をと  
つととられてきたことばく存知の通りであ  
ります。

心としてこの文化なり、そういう圧倒的な決意を當時国民が持つておった。それは終戦自体が天皇制を守るといふことが最大の眼目で終戦交渉がおこなわれたといふことをみてもわかるし、その後の状態もそうだった。

しかしその天皇は昔の天皇ではない。やはり民族の団結の象徴としての象徴天皇である。いままでは天皇は政治権力をもち、あるいは非常大権をもち、あるいは軍部などに付する統帥権をもち、あるいはその他の皇室財産をもたれておった。しかし戦後ににおいては天皇は無一物、無尽蔵である。無一物なのに無尽蔵である。そういう東洋的な日本的な哲学のシンボル、権化として再び国民とともに歩まれたといふことになつ

た。政治権力から離れて皇室財産を捨てての  
れた。そこに無限大の広さ、無限大の親愛感  
というものをもって、そして公正無私、そ  
ういうような普遍性をそこで見い出して、  
そして旧来の伝統、二千年に近い大きな歴  
史の流れのなかで絶え間なく存在し、また  
日本の結集の一つの推進的な中心線であつ  
た。そういうものを生かして、そして新し  
いやり方でもつた。しかし、これは新しい  
やり方といえるかどうか。

つてきた。いまでも与党と野党がやってるやうなもんですね。そういう形で、とにかく天皇といふのを中心にして、一生懸命団結をして今までやってきたのであります。

私は、このやり方といふのは非常にいややり方だと思つて。で、第一次世界大戦後、日本はこの道をいかなる事態においても守つていけば、社会は安定するであろうし、国家は安泰になるであろうし、外國からは尊敬される国になるであらむと思ってる。

「天皇は天空に輝く  
太陽の如きもの」

で、実際の政治というのは、秀吉だとか信長だとか家康だとか北条氏であるとか藤原氏であるとか、それが世俗的な政治をやつてゐる。象徴天皇といふものは、つまり平和とか文化とか、国民統合の中心にあられたのである。

私は総理大臣で、外国の元首や総理大臣に何回かお会いいたしますけれど、日本のこういう世俗的な権力と、国民統合としての権威、こういう二重構造というものがどうれぐらいありがたいかということを身にみて知つておるのは私です。

総理大臣になるものは、必ずしもそら上等なものばかりではないかも知れない。また政治の渦中に生き抜いてくるんだありますから、さまざまな飛沫をあびてくるわけです。しかし天皇といふ存在は、そういうものからはもう超然としておつて、そしていつさくから離れて、いるがゆえに天空にさんせんと輝いてる太陽の如きものになる。

外国から大統領がおいでになり、私と総理大臣官邸で会談をやりますけれども、公

立つ、それを阻害しないという範囲内において自己主張というものをわれわれはもたなければならぬ。自己主張がなければ文化の隆起もない。そういうような考え方にして、進歩的、二つに分けて、二つとも常にあって安定して日本がいけるといかなければならない。これがります。

— 11 —

式の場合には宮中で晩餐会をやる。そろそろた場合に大統領が宮中で天皇陛下にお会いになるとときには實に緊張してます。これが共産圏も自由世界を問わない。途上国、先進国を問わない。たいへんな緊張のものである。それだけのこの日本の天皇、この大きな伝統というものの權威があるんですよね。

昔、エチオピアにハイレ・セラシエという皇帝がおりました。このエチオピアの皇

「朝日丸」、「田の丸

帝制度といふものは、日本よりも長い历史を持ったといつていましてね。いまエチオピアは共产党、社会主义国家になってしまったて変な混乱のなかに飢えのなかに生きている。しかし戦前われわれはエチオピアの皇帝というものについては、特別の感じをもつていてましたね。それはやはり日本よりも長い伝統と威厳というものに対して敬意を表した。アメリカにしても歴史は二百年ですから、国家としての英国のキングの制度で、したって千年か、それぐらいのもんでしよう。そういう点をみると、一千数百年、二千年近くの連続としていつてゐるこの権威、それを守ってきた国民の結束力というものを日本独特の生きざまいとあります。なぜ隆起したのだろか、いろいろなものについて、しかも日本はこれだけ繁栄して、あれだけの惨憺たる敗北のなかに門的にみれば、さまたがむなどいろいろ要件を

みているのであります。それで私たちは、われわれのような俗説的な俗物が一方において行政権の責任者としてやらしていただいておる。しかしあつと超然たる、超然とした伝統的権威といふものがわれわれの上にあるがゆえに日本にたいする尊敬というようなものは、いやがうえにもある、また陛下のお人柄にもあすかつているところが大変あります。

そういう点を考えてみて、われわれがナショナリズム、すぐ天皇制と結びつけて尊王攘夷といふような考え方をもつ、これは間違いです。攘夷とみたいな考えは、間違いです。しかし天皇を敬愛するというのは間違いではない。そして憲法に従つて第一条をわれわれが厳守して、象徴天皇として、われわれの精神的ななこがれの中心点として結束していくこととは正しい。英國においても女王は尊敬あります。

ばならん。そういうような国家、あるいは運命共同体というものでみんなが意識して、いっしょに行こうじゃないかと、そういう意味でその一つのシンボルとして国旗をもち国歌をもつてゐる。この国旗や国歌、こういったものをお互いが大事にしあつて、そしてみんなが結束していくよですがどうしていくか、これはどの国でもやつておることです。オリンピックになれば国旗が掲揚され、国歌が吹奏される。それはその国の名譽を讃えるためにやつてあるわけであり。日本人が日本の国歌、日本の国旗というものを大切にする、国民全体がそれを知り、それを歌い、それにたいしてみんなで守つていこうという気持ち、国際社会において名譽ある地位を占めたいと憲法の前文に書いてあるけれども、そういう気持ちがあつてはあるだけ、名譽ある地位、そのシンボルとしての国旗とか国歌というものをわれわれが大事にしていくとふうことは自然な感情である。

などとへきではなんのどう。  
しかも日本の場合は、戦勝国ではない  
し、戦いに負けた国であり、迷惑をある程度  
度及ぼしたという反省をもっている国であ  
ります。そういう立場もまた自覚していか  
なければならない。そういう点からすれば  
我慢しなければならんときには我慢するの  
がやはり国民の襟度である。我慢できる人  
間というものは大物なのであります。  
そういう国際主義とナショナリズム、イ  
ンターナショナリズムとナショナリズムと  
の調和を考えていぐ、その調和点がどこに  
あるかということは国民的コンセンサスの  
なかでそれを発見し、われわれはそれを守  
っていくことが大事だ。それには國  
民自体がその自覺を持ち、よく知つてもら  
うことが大事であります。国際的な情勢や  
国際的な取り扱いや他の国々にがどうして  
いるかといふことを。

五〇

しかし攘夷といふような名前のつくよう  
ナリズムをもつてことをちゅうちよす  
る必要はないのであります。

す。これはまあ国民のみなさん、異論はないでしよう。右バネが跳ねあがってはならぬ、左の過激派が跳梁してはならぬ。われわれは中庸の道をゆく。そして国際的に受け入れられる国際的な様式、そのなかに日本は日本があくまで正しいと思うことは主張する、もちろんそれはよくまれでいる。各国が主張しうると同じ限度で日本も主張する。国際的な平和、繁栄に役

経済大国にふさわ

— 11 —

載して。それはアメリカの護衛艦が護衛し  
て示して、毎夜、ジボニーにて泊ります。

でホルムズ海峡を通ってこられる。アメリカは、ホルムズ海峡から通りてくる油いろいろのは一割もない。日本は五五%で、最近は五一%程度になったようです。が、ともかく五〇%はこしている。そういう最大の受益国です。そうすると日本のために護衛しているようなものじゃないか、とアメリカ人がいふ。

海艦をだして、フランスはクレマンソーといふ航空母艦もだしておる。イギリスは揚陸艦をホルムズ海峡のそばに待機させてゐる。オマーンというような国、あるいは、だいたいクウェートからあのへんにかけては昔はイギリスの勢力が強かつたですからね。イラクはフランスの勢力が強かつた、昔は。そういういろいろな因縁もあって、ペルシャ湾に艦艇を入れておる。アメリカは二十数隻もうむつていて、イギリス、フランスでも、もう四、五隻はいつてゐるでしよう。

の座標について右バネ、左の過激派、それ  
にたいする安定航路、また安全保障と經  
済の問題との調整、これが現実政治の大ま  
な大事な問題であるということを改めて申  
し上げる。

## 「國際的に貢献」

# 「国際的に貢献」

だから武力行使、というようなものについては、われわれはできない。ただ掃海というようなものは、武力行使ではないんであります。舞鶴の沖に、公海上に変な浮遊物があつて日本の船が往来するのに障害がある場合には、これは海上保安庁なり自衛隊がいつて、それを除去する。それは、国際法的にも可能でしよう。日本海の公海でそれができるならば、ペルシャ湾の公海でもできることはないということはないでしよう。国際法上は。ただペルシャ湾の場合には国際紛争がいま問題となつてゐる場所です。そういう意味において国際紛争のなかに巻き込まれないようとする配慮、あるいは周辺諸国にたいする日本の防衛にたいする安心感、あるいは国民的コンセンサス、そういうようなものを考えながら、私はペルシャ湾にはだしません、軍事的協力はいたしません、と断言をしておるのであります。

そういうあがでてきた場合には、それまで日本が逃げたら、日本は道義を知らん國、利己主義の國、エゴノミック・アーニマールの國というふうに烙印を押されてしまうでしょう。

それはけつして國際社會において名譽ある地位を占めたいと思うと書いてある憲法の前文に合致する態度ではないでしょう。私は憲法の前文なかで一一番頭にあるのは、いつもみなさんが書いていると思うが、「われわれは國際社會において名譽ある地位を占めたいと思う」と書いてある。それは國際國家のわれわれの一つの熱願の一つの表現でもあるわけなんでもあるわけ

憲法というのは国民的合意でできています。それを支持しているわけで、そこへみんなでもつていろいろとしておるわけなんだと思います。そういう意味においてこの経済力が強くなつた、まずこれだけ大きなGDPをもつ、これだけの大きな債権をもつ、これだけの大きな科学技術力をもつ、これが大きなハイテク能力をもつ、そしてこれだけ大きな市場をもつてきている、金融市場を。みなさんが想像する以上のスケールの日本になつっているんですね。そういうことになれば、安全保障とのからみでいふことは、今までのようにな小さな日本、あるいは、のほほんとした日本、国際的に影響力をもたなかつた日本とは違つた立場で、もう一回われわれがここで検討し、われわれの考え方を正しい線に沿つてまとめる

ていなければならん。そう思つ。  
しかし、それについては憲法に指針があり、日本が今まであげてきた防衛政策の原理があります。これは国民的コンセンサスを得ていると私は思つてゐる。その、われわれがもつてきた防衛政策の基本原理といふものを基本線にして、その時の國際情勢と調和をさせながら、安定航路帯を歩むように、この問題についてもしていつたらいいと、そう思つておるのであります。

日本だけの自我だけですませられるような時代ではなくつてきている。それぐらいい日本の大きな力といふものは無視できな、他国が妄心してほつとけないだけの力になつてゐるということを考えさせていただきたい。そう思うのです。

私は景氣のいいことひや勇壮ないことをいふ。ということは政治家としては拍手を得られない、樂しいことだと思つてゐる。しかし實際、五年間、政治をやらしていただいで、これは危ない、これはどうしても心していかなければならんことは、いま、私が任期がくる前に国民のみなさんにお伝えしておかなければならぬ。そう思つて、きよまじめに聞かしてくれ、耳をすましておきなさいと、そういうふうに思つてきましたのであります。

そこにはいる会場にいるみなさんだけにいつてゐるのではないです。私は一億二千万の国民のみなさんと、みなさんを通じて、いねうと思つてきようはやつてきただのであります。

ギーに満ちた、将来性のある感じのあります。しかし、ターナーミズムにあふれ、エネルギーも豊富な日本は、資源の乏しい韓国や台湾などに比べて、資源の豊富な中国大陸との競争が激しくなることは避けられないでしょう。

ましても。それを見てソ連が驚いて「ロルバ  
チヨフさん」がペレストロイカということを  
いいだしましたね。あるいは情報公開とい  
うようなクラスチノスという、そういう大  
改革にソ連もやっぱり入りつつある。  
東欧の国々にも、やっている国もあるやし  
らん国もあるけれども、そういうことにな  
っておる。

北鮮、あるいはベトナムというのはあん  
まり……なんだから伸びないんじゃない  
かと批判されておる。しかし、それ以外の  
国は、中国でもソ連でもモンゴルでも最近  
そういうね。そういう開放、あるいは自由  
化をおこなむと、責任性をもつている。そ  
ういうやり方で大きな変化が起きているだ  
しょり。

山口新見解也

きたといふことは、中国にも影響を与えてゐるんじゃないだろうか。ソ連にも影響を与えてゐるんじゃないだろうか。外国の大統領あるいは書記長さんは、日本に非常にきたがっている。この間もボーランドからヤルゼルスキーさんがきたでしよう。これは日本経済を見にきた。社会主義経済があまくいかんもんだかい。日本経済、なんで発展したんだろうかと秘密を見にきた。ほとんど大部分がそうです。それが資本主義や、自由主義や市場経済でこれをやったところなどで、資本主義経済といふのを再点検しなければならへど。中国はその意味において近代化に入って、そして開放政策に入りましたね。これが中国の経済力をぐっと高めてきましたね 農村、その他み

“山口新見解も認める自民党の道”

で。それを日本的に改革して凌駕していくわけですね。そういうようなアメリカとこういう関係に戦ってきたということがあります。このことを本の繁栄の大きな原因です。このことを共産党や社会党はあまり今まで人気がでなかつたのは、そういう面があつたんではないでしょうか。

いろいろな過ぎるかもしれないが、しかし最近、社会党さんも変わってきて、山口新見解といつものができるまし、安保条約や自衛隊や韓国、原子力発電、こういう問題についても現状は認めざるを得ないといふところまきましたね。これは国民が何を考えているか、なぜ日本が繁栄したかといふことを知っているからです。それにいたる。だからこの道は間違っているとは思わない。現に中国やソ連ですら大きな影響をうけて改革に入っているじゃないか。眞一文字にやつてきたのは自由民主党である。だからわれわれはいまや、自由経済、市場経済を最大限に保持しようとする国家です。アメリカにおいては保護主義がでてきました。統制的な思想がでてきた。それに眞一文字によれば、それは世界経済におけるそういう意味においては世界経済における向から対立して、そいつの保護主義政策を通させまいとしているのはわれわれですよ。レーガン大統領と手を組んで。だからこそ、そういう意味においては世界経済におけるつまり日本の主体性といつものぞだじいいく。とそのためには、やはり日本独自の考え方や生き方や哲学、それを理論やことばで説明できるといふ体系をもたなければなりません。そもそも日本人は、勝手に、なにしてるんだかわけのわからん国民党がアメリカに行って制覇しようとした。そういう話がある。競輪でも中野選手は十連覇をやった。まあいろいろある。ボクシングのチャンピオンがほとんど負けてしまつた、いろいろありますね。しかし日本が非常に話題になつてきてる。これは非常にいいことだ。いままで日本人の頭のなかに入つていなかった、いろいろがアメリカ人の頭のなかには日本なんか入つていないですよ。ほとんどない。ヨーロッパ人の頭のなかにも日本なん

のを推し進めていたり、最大の一つは日本である。それだけにまた自分の方も、いわゆるものは開放しなきゃいけないんです。だから基準認証制であるとか、あるいは市場アクセスの問題、輸入の問題、そういうもの、一步一步、その自由経済、市場開放という面に向かって一步一歩、着実に前進していくに加なれば、われわれが過去に今までたどってきた道から逸脱するという形になる。

日本は過去においても非常に苦渋に満ちた選択をしてきておる。八条国になる場合でも金融を開放する場合においても、あるいは関税率を安くする場合でも、国民のみなさんにはかなりの苦しみや負担を与えてやつてしまつて。しかし、それを乗り切つてきたから、これだけのもつと大きな経済が生まれてきたわけなんあります。

われわれが二十一世紀に向けて日本を考える場合に、もっと大きな、もっと安定した日本にしていくために、いま、われわれがいまやるべきことをやっておかなけばならない。四十年の軌跡を考えてご覧ください。そういうことをここでみなさんに申し上げておきたいのです。

まあそういうような関係で、敗戦国がこれまでだけの自由主義市場開放経済によって成長したといふことが世界の歴史のうねりにおいて、現代において、非常に大きな影響を及ぼさない。そういうことをここでみなさんに申しますから説めてもいい、よ。

しかし、そのうえ、われわれはさらにいきな仕事です。

だから認識されるということだが、まあ大事なんです。これは、政治で候補者になつて当選しようと思ったら、ます名前を知らねぎゃだめです。そういうことと似いでいるでしよう。しかし悪い印象でやつたらいいから。これをいい方へ切り換えていく。しかも知られることはやはり大事なことなんですからね。だから、この知られたことをうまく活用して、これをいい方向に切り換えていくことがこれから日本の大きな仕事です。

ともかく知らないんだから、他の国にくじく。これだけ知られてきて、日本語熱がうんとでてきた。オーストラリアでは高校あたりでは第一外國語が日本語になつてきたり。ドイツあたりでは三十ぐらいの大学で講座、日本語の講座をやつとしている。ひととこはジャパンバッシングの一一面がもしれないが、日本を勉強したり、日本とはなんだ、そういう関心がわいてきたところなど、こんなことばつぱんで歴史上、ならじいです。これをよくひっくり返して、そして日本をよく認識してもらつて、向に全力を注ぐことがわれわれの今後の仕事、二十一世紀にかけての仕事です。

ま二百億円、去年の分も入れれば三百億円が資金還流を発展途上国にやるとしている。いまやりつつある。日本にこれだけお金があるんですから、そのお金を外国にお使い下さい、安い金利でお使い下さいといつて、われわれの後を追っかけてきている——われわれだって百年前は発展途上国だったんですからね。あるいは昭和の三十五年ぐらいまでは発展途上国であった、安保騒動をやってるころまでは。それから先进国にしてきた。ですからいまやつておる国々にお使い下さい、といって、あるお金を使えるだけ使っていただきのままで本のこういう処置を歓迎すると書かれた。フランスの大統領は、日本だけなぜ書くのかどうだいぶいわれましたがね。しかしあなたの話をして、ともかくみなさん評価してくれて、経済宣言のなかに日本だけが先进国にしてきた。この間ベネチア・サミットで、その話をしたら、とにかくみなさん評価してくれる影響。それからわれわれがいま個別的にもやつておる貢献、それからさらにそういうような形によって東アジアの国々に生活水準も高まってきたし、賠償が始まって、そしてわれわれは相当な田舎を毎年協力している。インドネシア、中国あたりは毎年八百億円近くやっている。とかその他の六百億円くらい、毎年年。それで国内経済を整備し、インフラトラクチャーを整備し、発電所をつくります。

「地球倫理」に立つて日本の主体性

時間がきましたから、これでやめますけれども、そこで一番大事なことは、私は前からいつもいっているが、その民族共存、

# 自民党憲法調査会(1982.8.11)

## 『中間報告』より第一章の抜粋

〔第五条〕「皇室典範の定めるところにより摂政を置くときは、摂政は、天皇の名でその国事に関する行為を行ふ。この場合には、前条第一項の規定を準用する。」

### ● 第五条を

皇室典範の定めるところにより摂政を置くときは、摂政は、天皇の名でこの憲法の定める天皇の行為を行ふ。

とし、

「その国事に関する」と「この場合には、前条第一項の規定を準用する。」を削除する。

〔第六条〕「天皇は、国会の指名に基いて、内閣総理大臣を任命する。

(2) 天皇は、内閣の指名に基いて、最高裁判所の長たる裁判官を任命する。」

### ● (1) 現行どおりとする。

〔第七条〕「天皇は、内閣の助言と承認により、国民のために左の国事に関する行為を行ふ。

一 憲法改正、法律、政令及び条約を公布すること。

二 国会を召集すること。

三 衆議院を解散すること。

四 国会議員の総選挙の施行を公示すること。

五 国務大臣及び法律の定めるその他の官吏の任免、並びに全権委任状及び大使及び公使の信任状を認証すること。

六 大赦、特赦、減刑、刑の執行の免除及び復讐を認証すること。

七 荣典を授与すること。

八 批准書及び法律の定めるその他の外交文書を認証すること。

九 外国の大使及び公使を接受すること。

十 積式を行ふこと。」

### ● (1) 第七条冒頭の条項を

天皇は、内閣の助言と承認により、国民のために、左の行為を行う。

とし、

「国事に関する」を削除する。

### ● (2) 同条第五号を

天皇は、内閣の助言と承認により、國民のために、左の行為を行う。

とし、

「並びに全権委任状及び大使及び公使の信任状を認証すること」の部分を削除する。

### ● (3) 同条第六号を

大赦、特赦、減刑、刑の執行の免除及び復讐を行なう。

とし、

「並びに全権委任状及び大使及び公使の信任状を認証すること」の部分を削除する。

### ● (4) 同条第八号を

条約を批准すること。

とし、

同号の全文を削除する。

### ● (5) 同条第九号を

全権委任状及び大使及び公使の信任状を発し、並びに外國の大使及び公使を接受すること。

とし、

同号の全文を削除する。

とし、

「並びに財産を譲り渡し、又は皇室が財産を譲り受け、若しくは賜与することは、国会の議決に基かなければならぬ。」

### ● (1) 現行どおりとする。

第一項中の「國事に関する」と「國政に関する権能を有しない」及び

第二項中の「國事に関する」はいずれも削除する。

(4) 第四条は構造的に改正する必要はないという考え方であった。

（なお、「中間報告」の全文は第6回  
審査と併和を考えるなどの資料  
集に収録されています。）





1928年11月 即位の大礼

常事態番組」の極秘プロジェクトをスケープしたものであった。ジャーナリズムの研究家、松浦総三氏は、この記事について、「新聞が、天皇死亡記事を、さまざまに場合を想定して、何種類も、すでに完成したという噂は、マスコミにはすでに伝わっていた。が、放送と『マスコミの中の天皇』（大月書店刊）に記している。

「いま東京のテレビ局では、一つの『極秘計画』が、深く静かに進行している。各セクションから選ばれた数人の社員がプロジェクトチームを作り、来たるべき『日』の実行計画を練っているのだ」

として、Xデーに編成される「非

### あれから七年、今――

「極秘指令『昭和最後の日』を準備せよ」と題して、来たるべきXデーに備えた民放テレビの放送計画を本誌39号が報じたのは、1979年7月のことであった。

それは、

「たしかに現天皇の『死』は大ニュースであるし、半世紀以上にわたつた『昭和』の終りでもあるのだからそれにふさわしい番組を準備することも必要だといえる」

として、Xデーに編成される「非

# 昭和最後の日の48時間テレビ

常事態番組」の極秘プロジェクトをスケープしたものであった。

ジャーナリズムの研究家、松浦総

三氏は、この記事について、「新聞が、天皇死亡記事を、さまざまに場合を想定して、何種類も、す

でに完成したという噂は、マスコミにはすでに伝わっていた。が、放送

と『マスコミの中の天皇』（大月書店刊）に記している。

この記事が書かれた1979年と

いえば、「元号」法制化が強行され

た年。自民党政権は、天皇制の『露

頭』ともいうべき元号の使用を国民

に強制することによって、『元首』天

皇制を骨子とする憲法改悪にむけ、

さらに大きな一步を踏み出した年で

ある。

まさに、その時期にこれは書かれ

た。それだけに同レポートは、視聴

者を三日間も“天皇漬け”にするXデーの放送計画に対しても、強い危惧の念を表明していた。

それから七年の歳月が流れた。事

態はどう変わっただろうか。

テレビと天皇についていえば、つい最近の4月29日をピークとした一連の天皇報道が、その実態を示して

いる。一、二の例外を除いて、ほと

んどの番組が“天皇元首化”的方向

に取り込まれ、本誌前号で予告した

とおり、ひたすら天皇を平和主義者として讃え、天皇制をうたい上げる

こと熱意をそいでいた。

一方、Xデー「非常事態番組」に

については、準備指令の段階から今日

までの間にさらに計画が練られ、そ

の日の放送のために、完璧なマニュ

アルを作製した局もあるほどであ

ることに熱意をそいでいた。

一方、Xデー「非常事態番組」に

については、準備指令の段階から今日

われた午後二時台のテレビは、まさしく“天皇一色”であった。だが、天皇番組につき合いたくない視聴者は、その時間帯さえ我慢すれば、日常的な番組を選んで見ることもできた。

### ニュースと予報だけが

今年の天皇誕生日は、たんに天皇85歳の誕生日を祝うだけではなく、天皇の在位60年を祝う日とされた。そのためテレビでは多くの特別番組が組まれ、ニュースやワイドショーやでも天皇報道に多くの時間が割かれていた。

とにかく、在位60年記念式典が行

われた午後二時台のテレビは、まさしく“天皇一色”であった。だが、天皇番組につき合いたくない視聴者は、その時間帯さえ我慢すれば、日常的な番組を選んで見ることもできた。

す」と、Xデーに即位する新天皇（現皇太子）にかかる番組であり、過ぎにし“天皇の昭和”を回顧する番組である。

こうしてXデーのテレビは、すべてのチャンネルにわたって、すべての番組が、まさしく“天皇一色”に塗りかえられてしまう。

しかも、それはXデー一日だけで

はない。後に述べるように、何日間も続くのである。

しかし、現段階では、それも取りやめることになっている。つまり、Xデーの期間中、民放はノースポンサーとなるわけだ。

では、日常的な番組の中で、何が残されるのか。

ニュースと天気予報だけである。そして、きれいさっぱり消されてしまったモロモロの番組やCMにかわって登場する

天皇78歳の誕生日・在位60年のイベント放送を終えたいま、テレビ

局はそれぞれに冷感な“非常事態”に備え、いつそその体制強化をはかりつつある。

すでに各局とも、皇居周辺のビル

屋上に全自动カメラを設置し、作動させている。

それらは一般的に「情報カメラ」とよばれ、都心の風景や交通渋滞の番組に送り込むことを日常の任務としている。しかし、イザという時に役立てるための配置であることは、想像に難くない。

各局の情報カメラは、次に示すビルの屋上に置かれ、静かに皇居を見守っている。

○日本テレビ……三井ビル

○TBSテレビ……郵船ビル

○フジテレビ……岸本ビル

○テレビ朝日……帝劇ビル

○NHK……三菱商事ビル

くりかえし引用することになるが

本誌39号には、

「いま放送局や新聞社では、「その日」のための準備が、極秘のプロジェクトチームによって進められている。『近代史プロジェクト』『昭和史班』『昭和史研究プロジェクト』と、局によってチームの名称はさま

ざまだが……』とある。

だが、今日では、これらの作業はもはや“極秘”とはいえないくなつた。

## Xデー特別編成の一例

(時)	0
1	生情報 (宮内庁・官邸等と報道センター、Xスクを結んで) ■宮殿内より「御靈渡御 (けんじとぎよ)」の儀中継
2	■改元作業・大典の要綱
3	総理声明・危機管理体制へ
4	■新天皇、皇太后ら皇族の動静、崩御本記
5	ニュース・天気予報・予告 (崩御本記まとめ)
6	■Xデーの波紋 ■海外の反響
7	■官内庁・官邸・国会の動きなど
8	焦点の元号解説コーナー
9	■新元号制定の過程 ■新元号反響
10	ニュース・天気予報・予告
11	■政府発表中継 ■これまでの動きの総括
12	■各界の波紋 ■生活関連情報も
13	特別番組・天皇陛下をしのんで
14	(ゲスト出演)
15	私と陛下～声でつづるレクイエム
16	(国民の声でつづる鎮魂歌)
17	ニュース・天気予報・予告
18	昭和と～昭和史と天皇～ 第1部
19	Part I 「昭和の黎明」
20	Part II 「魔境の中から～敗戦と占領～」
21	ニュース・天気予報・予告 (一日のまとめ)
22	昭和史と天皇 第2部
23	Part III 「繁栄の時代～その光と影～」
24	フィーラー 追悼音楽、映画やドキュメンタリー
1	生情報 ニュース・天気予報・予告
2	■皇族の動き、政府の動き、社会経済生活への影響
3	特別番組・悲しみ日本列島
4	■各局リレー中継
5	■アジア他、海外の反響
6	ニュース・天気予報・予告
7	わたしの昭和史 女性たちが語る「昭和とわたし」
8	1924年に開始されたラジオの普及率は、「大葬」当時わずかに3%
9	Xデーには、プレXデーと同時にこうした意味でのアフターXデーも加わり、さらに、その後には「大葬」がひかれている。
10	Xデーとともに、年号は「〇〇年」と改元されて新しい天皇の時代を迎えることになるのだが、「昭和最後の日」の放送はXデーだけで終わることなく、この「大葬」ちなみに「大正最後の日」は1926年12月25日。大葬は、翌年2月7日に行われている。
11	Xデー特別編成にあたっては、大事件が起きたときには何時もそうであるように、直ちにカット・インできる。しかし、特別編成をカット・アウトして通常編成に移ることは、あまりにも不自然である。いつの間にか変わっていた、という編成がのぞましいわけだが、それには長い時間をか
12	CMについても同様な配慮をしなければならない。解禁になつたとたんにハチャメチャなCMが飛び出したりでは、局もスポンサーも、ともども不謹慎のそしりを免れないからだ。
13	通常番組からXデーの特別編成に切り換えるにあたっては、大事件が起きたときには何時もそうであるように、直ちにカット・インできる。しかし、特別編成をカット・アウトして通常編成に移ることは、あまりにも不自然である。いつの間にか変わっていた、という編成がのぞましいわけだが、それには長い時間をか
14	CMについても同様な配慮をしなければならない。解禁になつたとたんにハチャメチャなCMが飛び出したりでは、局もスポンサーも、ともども不謹慎のそしりを免れないからだ。
15	通常番組からXデーの特別編成に切り換えるにあたっては、大事件が起きたときには何時もそうであるように、直ちにカット・インできる。しかし、特別編成をカット・アウトして通常編成に移ることは、あまりにも不自然である。いつの間にか変わっていた、という編成がのぞましいわけだが、それには長い時間をか
16	CMについても同様な配慮をしなければならない。解禁になつたとたんにハチャメチャなCMが飛び出したりでは、局もスポンサーも、ともども不謹慎のそしりを免れないからだ。
17	通常番組からXデーの特別編成に切り換えるにあたっては、大事件が起きたときには何時もそうであるように、直ちにカット・インできる。しかし、特別編成をカット・アウトして通常編成に移ることは、あまりにも不自然である。いつの間にか変わっていた、という編成がのぞましいわけだが、それには長い時間をか
18	CMについても同様な配慮をしなければならない。解禁になつたとたんにハチャメチャなCMが飛び出したりでは、局もスポンサーも、ともども不謹慎のそしりを免れないからだ。
19	通常番組からXデーの特別編成に切り換えるにあたっては、大事件が起きたときには何時もそうであるように、直ちにカット・インできる。しかし、特別編成をカット・アウトして通常編成に移ることは、あまりにも不自然である。いつの間にか変わっていた、という編成がのぞましいわけだが、それには長い時間をか
20	CMについても同様な配慮をしなければならない。解禁になつたとたんにハチャメチャなCMが飛び出したりでは、局もスポンサーも、ともども不謹慎のそしりを免れないからだ。
21	通常番組からXデーの特別編成に切り換えるにあたっては、大事件が起きたときには何時もそうであるように、直ちにカット・インできる。しかし、特別編成をカット・アウトして通常編成に移ることは、あまりにも不自然である。いつの間にか変わっていた、という編成がのぞましいわけだが、それには長い時間をか
22	CMについても同様な配慮をしなければならない。解禁になつたとたんにハチャメチャなCMが飛び出したりでは、局もスポンサーも、ともども不謹慎のそしりを免れないからだ。
23	通常番組からXデーの特別編成に切り換えるにあたっては、大事件が起きたときには何時もそうであるように、直ちにカット・インできる。しかし、特別編成をカット・アウトして通常編成に移ることは、あまりにも不自然である。いつの間にか変わっていた、という編成がのぞましいわけだが、それには長い時間をか
24	CMについても同様な配慮をしなければならない。解禁になつたとたんにハチャメチャなCMが飛び出したりでは、局もスポンサーも、ともども不謹慎のそしりを免れないからだ。

Xデー  
第2回

## Xデー特別編成の一例

(時)	1
2	生情報 ニュース・天気予報・予告
3	■大喪要綱 ■陵墓予定地
4	ニュース・天気予報・予告
5	特別番組・新時代明ける
6	第1部 新天皇の人となりと皇室像
7	第2部 世界の中の日本
8	ニュース・天気予報・予告
9	エンディング ■48時間の総括
10	終了



1945年3月18日 東京大空襲の被災地を視察

非常事態の発生と同時に瞬発的なリアクションを起こさなければならない。そのためのマニュアル（手引き書）を、ごく一部の者が握っていたのでは意味をなさないからである。さて、それらのマニュアルとともに、テレビのXデー編成をみていくことにしよう。

なお前掲のマニュアル中「T K」「XY」とあるのは、T、およびXは天皇を、K、およびYは皇后を意味していることはいうまでもない。

つまり、(1)の場合には、その日の放送開始から放送終了までの、まる一日間。通常の放送時間は、ふつう朝6時から深夜2時頃までなので、この場合の特別編成は、6時に放送終了時まで。

(2) 正式発表が午前6時以後にあつた場合……特別編成は当日の放送終了時まで。

つまり、(1)の場合には、その日の放送開始から放送終了までの、まる一日間。通常の放送時間は、ふつう朝6時から深夜2時頃までなので、この場合の特別編成は、6時に放送終了時まで。

(2) 正式発表が午前6時以後にあつた場合……特別編成は翌日の放送終了時まで。

つまり、(1)の場合は、その日の放送開始から放送終了までの、まる一日間。通常の放送時間は、ふつう朝6時から深夜2時頃までなので、この場合の特別編成は、6時に放送終了時まで。

(2) 正式発表が午前6時以後にあつた場合……特別編成は翌日の放送終了時まで。

つまり、(1)の場合は、その日の放送開始から放送終了までの、まる一日間。通常の放送時間は、ふつう朝6時から



改憲・徵兵制も提言  
米資料で明らかに

身も同じ意向を持たれて  
た」と語している。

## 故高松宮を中心のグループ

昭和二十七年の日米行政協定交渉の際、故高松宮殿下を中心とす  
るグループが独自の安全保障構想を練り、その報告書を米側代表で  
来日中のディーン・ラスク特使（後の米国務長官）に提出していく  
ことが、朝日新聞社が米国立公文書館からこのほど入手した公開資  
料のコピーで明らかになった。この報告書は、「日米安保条約および  
び行政協定に関する日本の要望」と題され、アジア太平洋地域の平  
和と安全維持に向けて、日本の防衛力を確立するための諸提案を行  
っている。その中で、日本の防衛力は、原則的には「太平洋国連軍」  
の形態をとるべきである、しながらも、当面の防衛力増強措  
置として、当時の警察官備隊の正規軍昇格、憲法改正、さらにに徵兵  
制の導入などが検討課題としてとり上げられている。高松宮自身  
がこの構想づくりとの程度かかわっていたかは、この資料では明  
らかでない。とにかく、こうした報告書の存在は、当時の日米関係  
に高松宮が何とかの役割を果たしていたことを裏付けるもので、高  
松宮の隠れた一面をのぞかせるものだ。……（3面に関係記事）



故高松宮殿下

DESIRSES OF JAPAN CONCERNING U.S.-JAPAN  
SECURITY TREATY  
AND  
ADMINISTRATIVE AGREEMENT

この報告書は英文でタイプされ、表題部分を含めて二十二頁であるが、日付は記されていない。しかし、「一九三五年二月二十八日」まで東京・高輪の高松宮邸の住所と「シロー・カワヅエ」の署名入りで、在日米大使館のラスク特使に差し出された英文の手紙が添付されている。関係者によれば、差出人は

DESIRERS OF JAPAN CONC  
SECURITY  
AND  
ADMINISTRATIVE

1987年  
朝日新聞 12/26

昭和十七年一月二十八日の日米行政協定締結の際、高松宮のグルーフがラスク米大統領特使に提出した安全保障構想は次の通り。

二、現在の世界勢力  
ソ連の威は極東にある諸国を不安定にし、東西からソ連の封強力に進める必要がある。安保条約も北大西洋



## 安保構想の要旨

○警察予備隊、海上警備隊を補強し、防衛軍的性格を持たせること

○同時に賠償問題を解決する。また、憲法を改正し、国際的な軍事バランスの変更に応じて、防衛軍を国防軍に昇格させる。

○賠償が実現し、トシア太平洋地域での日本の建設的役割を確立する。

○日米安保条約、米・豪・二ヶージャンブル間安全保障条約、米日相互防衛条約を発展させ、太平洋安全保障機構を創設し、日本も主権国家として参加する。

③軍事生産能力を增强する。

④徴兵制を導入する。

⑤以上の計画を達成するため、米国に財政支援を請うる。現在の国際情勢の急激な変化を考えると、警察予備隊なりを漸増させて国防軍を組織する十分な時間は与えられない。そこで、慢歩行兵に対処できる唯一の道は、前記の太平洋戦争に現在の日本の防衛力を統合させることである。共産側の侵襲というような事態に十分対応できるだけの防衛力は、太平洋軍の組織化においてのみ可能である。

深刻な危機が発生するのも歴史的である。しかし新たな戦争に備えるためにも、日米安保は太平洋地域の安全保障を充実する役割を担っている。

一、日本の防衛は太平洋の共同防衛の枠組みの中であるべきであり、国軍だけでは一国の防衛手段でござらぬことを日本国民はよく認識している。

二、日本の防衛力は、太平洋戦争として活躍つかれるべきであり、小規模な紛糾に由るが、日米安保および連邦軍の国

治安、秩序の範囲で進めるべきである。  
「行政協定」  
一、新たな防衛力創設は、かつての軍国主義の再生でないことは多くの国民が理解している。若い世代も「太平洋の平和」へ向けた防衛努力であれば結実するだろう。  
二、日本は現在の経済力では、独自の戦力を保持するほど非常に困難である。本当に効率的防衛力は、資源をはじめとした和諧を維持するのも当然として、性、社会制度などの独自性が、将来の両国関係を決定づけよう。日本が台湾の国民党政府と平和交渉を結ぶのは当然として、も、当面は「二つの中国」政策を続けて多くののが現実的である。

— 20 —